

小 学 校

平成 30 年度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

目 次

研究主題

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究仮説	1
IV	研究方法	2
V	研究内容	2

第3 学年及び第4 学年分科会研究主題

I	分科会研究主題設定の理由	4
II	研究の視点	4
III	研究仮説	4
IV	研究内容の概要（研究構想図）	5
V	研究内容	6
VI	研究の成果	10
VII	研究の課題	10

第5 学年分科会研究主題

I	分科会研究主題設定の理由	11
II	研究の視点	11
III	研究仮説	11
IV	研究内容の概要（研究構想図）	12
V	研究内容	13
VI	研究の成果	17
VII	研究の課題	17

第6 学年分科会研究主題

I	分科会研究主題設定の理由	18
II	研究の視点	18
III	研究仮説	18
IV	研究内容の概要（研究構想図）	19
V	研究内容	20
VI	研究の成果	24
VII	研究の課題	24

主体的に問いを追究し解決する児童の育成

～小学校社会科における見通しと振り返りの充実～

I 研究主題設定の理由

本年4月及び5月に、本研究員が担任する学級の児童の社会科における調べ学習の状況の分析を行った。分析した結果、約4割の児童が課題追究の場面において学習課題を把握しないまま調べたり、「楽しかったです。」などの抽象的な記述の学習感想で終わり、具体的な学習内容について記述がなかったりしたことから、課題追究の場面で児童の追究意欲が持続していないことを見いだした。その理由を検討したところ、課題把握の場面で単元全体の見通しを児童に十分にもたせていないこと、課題追究の場面で教師主導となることがあること、児童の振り返りを教師が活用できていないことに課題があることが分かった。

この課題の改善に向けた協議を行う中で、本研究では児童の主体的な学びに着目した。文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」(平成29年9月)では、主体的な学びの例として、「学ぶことに興味や関心をもち、毎時間見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる」と示されている。本研究では、これらのことを踏まえ、主体的に追究している児童の姿を、「社会的事象に関心をもち、学習問題を解決するために見通しをもって調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考え表現する」姿であると定義し、全体主題及び副主題を設定した。そして、児童は単元全体の見通しをもって調べたり、調べたことを振り返ったりすることが充実することで、社会的事象に対して関心をもち続けながら追究し、学習問題を解決することができるだろうと仮説を立てた。そのために、教師は児童が主体的に追究できるよう授業を組み立てることが重要であると考え、児童の振り返りを基に、教師も授業を振り返り、授業改善を行うこととした。

なお主題にある「問い」については、「小学校学習指導要領解説社会編」(平成29年6月)で示されていることを基に、単元で解決する学習問題を中心とし、学習課題や疑問、発問も含むこととした。

以上の点に基づいて、主体的に問いを追究し解決する児童の育成に必要な見通しと振り返りの方策について、発達段階や学習内容を考慮しながら、各学年分科会で研究を進めた。

II 研究の視点

- 1 児童が問いの解決に向け見通しをもって調べるための手だて
- 2 児童の振り返りを基に、教師が授業改善を行うための手だて(全分科会共通)

III 研究仮説

児童が社会的事象について関心をもち、見通しをもって調べたり、1単位時間や単元の終末で学習したことを振り返ったりするために、教師が教材や指導方法を工夫したり、児童の授業の振り返りを基にした授業改善を行ったりすれば、児童は、単元を通して社会的事象に関心をもち続け、主体的に問いを追究し解決しようとするだろう。

IV 研究方法（全分科会共通）

- 1 先行研究及び文献研究
- 2 仮説に基づいた検証授業、各学校での研究員の取組、及びそれらの成果と課題の検討

V 研究内容

1 児童が問いの解決に向け見通しをもって調べるための手だて

本研究において、児童が主体的に問いを追究し解決できるように、授業構成を考えることが重要であると考えた。そこで、学年分科会ごとに日々の授業や検証授業の中で、授業構成の工夫を検討し、児童の記述等を基に検証することとした。

2 児童の振り返りを基に、教師が授業改善をするための手だて（全分科会共通）

児童の振り返りを見取るための、「CA（チェック&アクション）シート」を作成した。本研究員は研究内容1に沿って授業構成を考え（Plan）、授業を行った（Do）。そして、児童の記入したCAシート等を基に、それら有効であったかを確認（Check）し、これからの授業の改善につなげる（Action）というPDCAサイクルを取り入れることとした。

このCAシートはさらに、児童に自分の学習を簡潔に振り返らせることで、学習感想において具体的に振り返るようになることをねらった。

以上の手だてについて、各学校での研究員の取組や検証授業において、全児童の学習課題に対する考えや学習感想の記述内容等のノート記述、CAシートや授業記録を基にして、児童の主体的な問いの追究や解決に有効であったかを検証した。

(1) CAシートについて

〔質問項目〕
一単位時間での授業の流れに沿った三つの質問がある。毎時間三つに答えるのではなく、授業によっては一つだけに答える場合もある。

〔回答〕
それぞれの質問に対し、4段階で回答する。

〔回答理由〕
それぞれの質問の答えの理由を選択させる。Aは本時で扱った資料、Bはグループや全体での話し合い、Cは既習事項、Dは教師の全体での話や個別のアドバイス、Eはその他である。また、児童の判断によって回答理由を複数組み合わせることも可能である。

〔児童回答欄〕
選択した回答と回答理由を組み合わせさせて記入させる。例えば、答えが4で理由がAの場合、この児童は資料から疑問をもったり予想をしたりすることができたから見取ることができる。つまり、児童に疑問をもったり予想したりする教師の手だては、この児童には有効であったと考えられる。

この児童は教師の話で4を選んだことになる。この場合、この児童は学習課題に対して十分に調べられなかったと判断できる。選んだ答えが4であっても、主体的であったと安易に判断できない。

この児童は十分に調べられていなかったため、自分の考えをまとめられず話し合いも参加しづらかった状況であり、友達との話し合いで2を選んだことになる。次時は、この児童が十分に調べられるように個別の言葉掛けなどをすることが考えられる。

社会 CAシート					組					番									
質問	疑問をもったり、予想をしたりすることができましたか。				理由	学習課題について、資料を使ってすすんで調べることができましたか。				理由	学習課題に対して、調べたことをもとにすすんで考えることができましたか。				理由				
	4	3	2	1		4	3	2	1		4	3	2	1					
答え方	あてはまる数字のマスに○をつける。 4 はい 3 どちらかといえば はい 2 どちらかといえば いいえ 1 いいえ																		
理由	A 資料 B 友達との話し合い C 前に学習したこと D 先生の話 E その他（自分で考えた理由を書く）																		
日付	疑問・予想				理由	調べる				理由	問いに対して考える				理由				
月 日	○				A	○				D					○				B
日																			

(2) 児童の振り返りを基にした本研究における授業改善例

本研究員が実施した第3学年「わたしたちのくらしと商店」(平成30年9月実施)では、小単元終末の学習感想が、「お店の方にいろいろ聞いて嬉しかったです。」など、印象に残っていることのみを記述する児童の割合は学級全体の約6割であった。そこで、「わたしたちのくらしと工場」(平成30年11月実施)では、前小単元からの改善として、「これまでどのように調べましたか。」や「前に学習したスーパーでは、どのような工夫をしていましたか。」など、自分の学習について振り返ったり、前小単元の学習を想起したりするような発問を行った。その結果、小単元終末の学習感想では、「資料があったりスーパーの時と少し似ていたりしたから疑問をもって調べて、疑問が解けた時が楽しかったから進んでできました。」など、CAシートの理由項目を基にして、自分の学習を振り返ったり、既習事項を生かすことで学ぶ楽しさを見いだしたりしたことの記述が見られた。このような記述で振り返る児童の割合は、前小単元で学級全体の約4割であったが、約8割に上昇した。

別の研究員による第4学年「火事からくらしを守る」(平成30年9月実施)の第1時では、火災現場の写真や映像を中心資料として学習を進めた。疑問・予想の項目において、「4(はい)」と回答した児童が学級全体の55%、「3(どちらかといえば、はい)」と回答した児童が36%と、9割ほどの児童が資料に着目して疑問や予想を見いだしていることが分かった。次時では、児童が火災に対して切実感をもち、さらに疑問や予想が出せるよう、火事の発生件数グラフを提示した。その結果、第2時では疑問・予想の項目において、「4」と回答した児童が学級全体の88%、「3」と回答した児童が12%と、第1時より「4」の出現率が33%上昇した。さらに、第1時で「4」と回答した理由として「A」(資料)を選択した児童が学級全体の42%だったのに対し、第2時では60%と18%上昇した。児童に切実感をもたせる資料が児童の追究意欲向上につながったと考えることができる。また、第1時の疑問・予想の項目において「2(どちらかといえば、いいえ)」と回答した児童は学級全体の9%であった。個別に聞き取りをしたところ、ノートにうまくまとめられなかったことを理由としていた。そこで、第2時では机間指導でノートのまとめ方を助言したり、児童同士で意見を共有する時間を設けたりするなど、改善を図った。その結果、第1時において「2」と回答した児童全員が、第2時では「3」または「4」と回答した。

(3) 児童の振り返りを基にした授業改善の成果と課題(全分科会共通)

(成果)・CAシートの記入を通して、児童は自分の追究の様子を自身で見つめながら学習を進めることができるようになることが分かった。このことは、中央教育審議会の「学習評価の現状と課題」(平成29年11月)に示されている、「主体的に学習に取り組む態度」(3)の①、②『単元終了時に「学習の振り返り」①学びの意義(興味・有用性・価値)、②学習を通じた自分自身への気付き・変容』に相当すると考えることができる。

- ・CAシートを数値で表した結果を基に、研究内容1「児童が問いの解決に向け見通しをもって調べるための手だて」の分析を行い、授業改善につなげることができた。

(課題)児童の考えや振り返りの状況をより明確につかむために、質問項目や理由項目について研究を重ねる。

児童が社会的事象から問いを見だし、 見通しをもって解決するための資料や学習計画の工夫

I 分科会研究主題設定の理由

本分科会で各部員の実践や児童の記述を分析した結果、課題把握の場面での課題が二点見いだされた。第一に、児童に疑問をもたせる手だてである。「事故や事件のないまちを目指して」の児童の記述には、「事故や事件の学習をして楽しかった。」や「事故が減っていることが分かった。」等のような記述が多く見られ、児童に疑問をもたせる手だてに課題があると捉えた。第二に、児童に見通しをもたせる手だてである。学習計画を立てる際に、「インタビューしたい。」や「本で調べたい。」等のように、抽象的な内容に止まっていることが明らかになった。課題解決に向けて、どのような資料や学習活動から、どのような情報を取り出せばよいのかという見通しの不十分さが課題であると、本分科会では捉えた。

「小学校学習指導要領解説 社会編」の「指導計画の作成と内容についての取扱い」では、「主体的な学びの実現については、児童が社会的事象から学習問題を見だし、その解決の見通しをもって取り組むようにすることが求められる。そのためには、学習対象に対する関心を高め問題意識をもつようにするとともに、予想したり、学習計画を立てたりして、追究・解決方法を検討すること、また学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり、新たな問いを見いだしたりすること、(中略)が必要である。」と示されている。

全体研究主題及び以上のことから、追究の動機付けや方向付けに着目し、「学習対象に対する関心を高め問題意識をもつこと」や「予想したり、学習計画を立てたりして、追究・解決方法を検討すること」に課題があると捉えて分科会研究主題を設定し、全体共通の手だてに加え、以下の二点の手だてを考えた。

第一に、児童に社会的事象から問いを見いださせるために、児童の追究の動機付けとなる資料を工夫する。疑問をもたせる資料を提示することで、児童は社会的事象から学習問題を見いだすことができると考えた。

第二に、児童に問いを解決する見通しをもたせるために、児童の追究の方向付けとなる学習計画を工夫する。学習問題の解決に向けて、児童の疑問や予想を生かした学習課題を設定したり、追究方法を明確にしたりすることで、児童に解決の見通しをもたせることができると考えた。

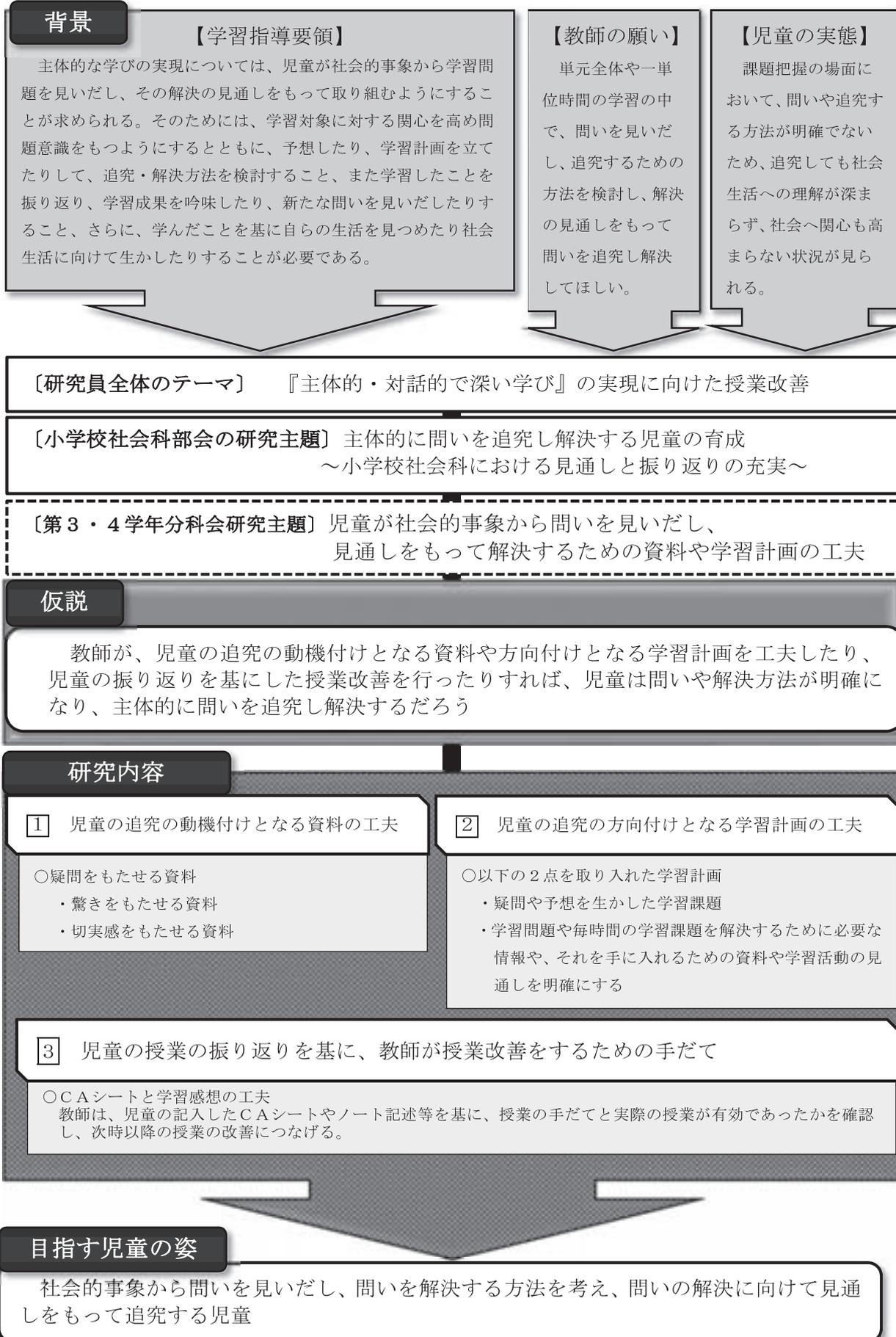
II 研究の視点

- i 児童の追究の動機付けとなる資料の工夫
- ii 児童の追究の方向付けとなる学習計画の工夫
- iii 児童の授業の振り返りを基に、教師が授業改善をするための手だて

III 研究仮説

教師が、児童の追究の動機付けとなる資料や方向付けとなる学習計画を工夫したり、児童の授業の振り返りを基にした授業改善を行ったりすれば、児童は問いや解決方法が明確になり、主体的に問いを追究し解決するだろう。

IV 研究内容の概要（研究構想図）



V 研究内容

実践事例「武蔵野新田を開発した川崎平右衛門」（第4学年 内容（4））をもとに、二つの手だてについて説明する。

1 児童の追究の動機付けとなる資料の工夫

本分科会では、追究の動機付けとは、児童に疑問をもたせることであると捉えた。児童に社会的事象に対する疑問をもたせるために、課題把握の場面で資料を用意した。この資料は、小単元の特徴を捉え、児童が驚きをもったり、切実感をもったりするような資料とし、その提示方法とともに検討した。

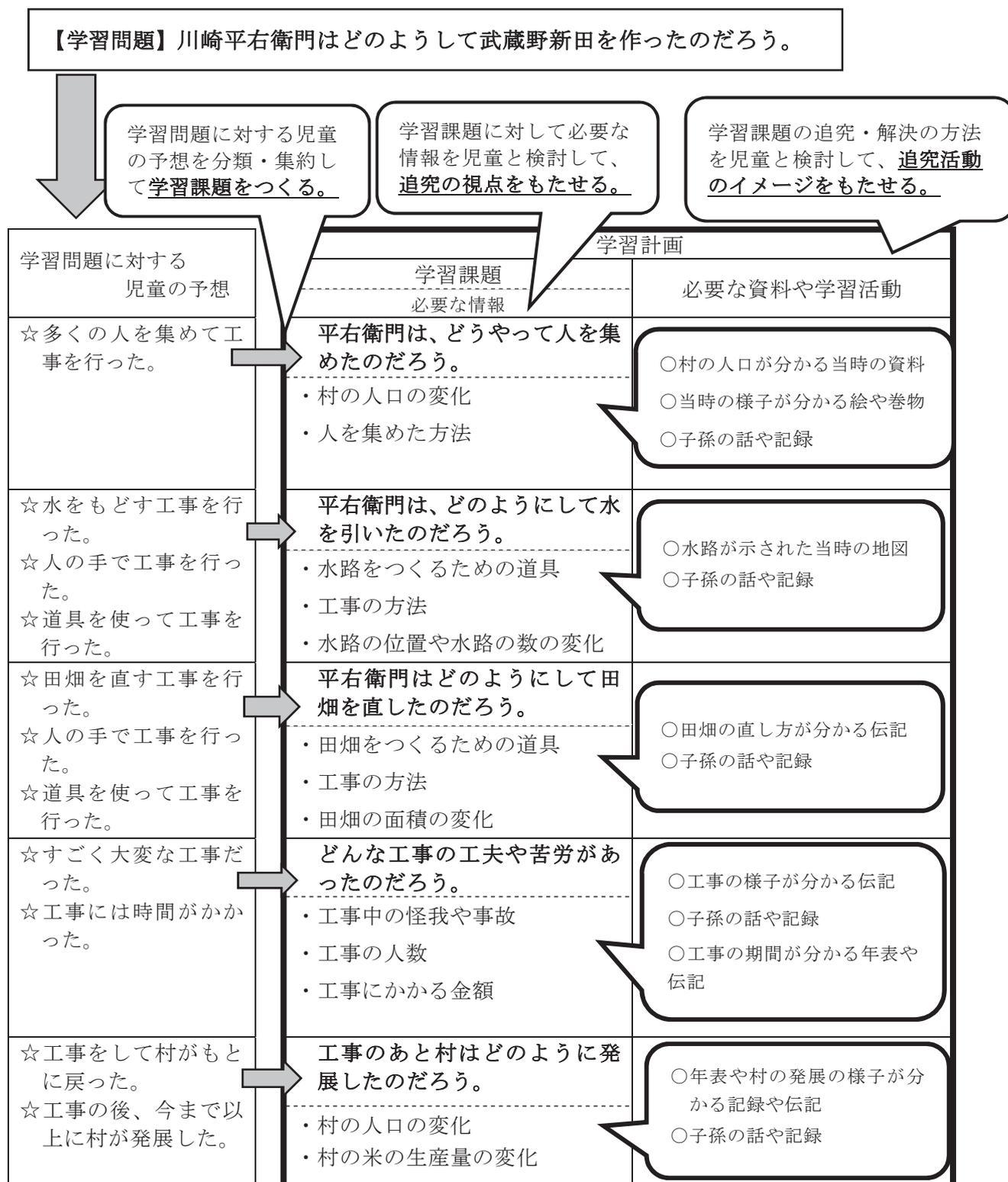
〈手だて1 児童の追究の動機付けとなる資料の工夫〉

時数	資料を用意した意図	資料と実際の児童の反応
1	<div data-bbox="225 667 699 815" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 資料の工夫その1 児童の反応を想定し、驚きや切実感をもつ資料を用意する。 </div> <div data-bbox="277 1144 676 1944" style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> 年表や農村の様子資料から、当時の人々の暮らしと現在の自分たちの暮らしと比較し、当時の暮らしの大変さを知った後で、飢餓で荒れてしまった村の様子と川崎平右衛門取り組みの概要の資料から、児童に切実感をもたせて、学習問題につなげることをねらった。 </div>	<div data-bbox="743 667 1453 815" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 資料の工夫その2 児童の反応が学習問題や学習計画とのつながるように、順番や提示の仕方などを工夫する。 </div> <div data-bbox="699 869 1465 1196"> ①年表 ②農村の様子 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> ☆この頃は畑ばかりだったのか。 ☆みんな農業をしていたんだね。 ☆今みたいに機械を使わないから、農業は今よりとても大変だね。 ☆多くの人で協力しないと農作業はできないね。 ☆みんなで生活しているね。 </div> </div> <div data-bbox="699 1196 1465 1621"> ③飢餓の様子 ④荒れた田畑や用水など村の様子 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> ☆飢餓によって人々は生活がくるしくなってしまうね。大変なことが起こったんだね。 ☆飢餓によって村はどうなってしまうのだろうか。 ☆飢餓によって、村から人がいなくなってしまったね。 ☆用水路が荒れてしまって、村に大変なことが起こったね。 ☆田畑が荒れてしまって、村が大変だ。 </div> </div>
2		<div data-bbox="699 1621 1465 2011"> ⑤川崎平右衛門の肖像画 ⑥川崎平右衛門の取り組みの概要 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> ☆立派な着物を着ているから偉い人かな。 ☆刀を差しているからお侍かな。 ☆どうやって人を集めたのかな ☆工事に何人ぐらい参加したのかな。 ☆どのくらい時間が掛かったのかな。 ☆どんな道具が使われたのかな。 ☆新田ができて人々の生活はどのように変わったのかな。 </div> </div>

2 児童の追究を方向付けとなる学習計画の工夫

追究の方向付けとは、以下の二点を基に学習計画を立案することであると捉えた。第一に、児童に疑問や学習問題に対する予想を生かした学習課題を設定することである。第二に、学習問題や毎時間の学習課題を解決するために必要な情報や必要な資料、学習活動の見通しである。

〈手だて2 児童の追究の方向付けとなる学習計画の工夫〉(第3時)



3 実践事例（指導計画に対する実践の様子）

小単元「川崎平右衛門と武蔵野新田」（10 時間）

時数	○主な学習活動	●資料 □留意点
課題把握	1	<p>〈ねらい〉当時の武蔵野の状況や人々の暮らしの様子について調べる。</p> <p>約 300 年前の武蔵野では、人々はどのような生活をしていただろう。</p> <p>○江戸時代（享保年間の頃）の時代背景について知り、現在からどれぐら い前の時代か、人々がどのような暮らしをしていたのかを捉える。 ○凶作や蝗の大量発生によりどのような被害が出たのかを調べる。 ○飢饉の状況を調べ、具体的にどのような問題点があったのかを理解する。 ○自分が当時の農民だったらどうするか、考えをノートに書き、話し合う。</p> <p>児童の反応</p> <p>・多くの人が農民として生活していたのか。 ・今から 300 年も前だから、いろいろな物がないんだろうな。 ・村人が村を捨てて出て行ってしまったんだね。 ・飢饉が起きると多くの人々が苦しんだんだね。 ・武士は農民を助けてくれなかったのかな。 ・畑を何とかして直さないと、食べ物が作れないね。</p> <p>分析</p> <p>切実感のある資料として「高翁家録」を提示した結果、当時の武蔵野がどれほど危機的であったのかを考え、調べる意欲につながった児童が多くいた。具体的に村人がどうして困っているのかを捉えることで、村人を救うためには何が必要であったのかを考えることができた。</p>
	2	<p>〈ねらい〉武蔵野新田の開発を主導した平右衛門について知り、疑問に思 ったことを書く。</p> <p>川崎平右衛門とはどんな人物で、何をしたのだろう。</p> <p>○前時の内容を振り返るとともに川崎平右衛門という人物がいたことを知 る。 ○川崎平右衛門の生い立ちや、幕府に選ばれた理由について調べる。 ○川崎平右衛門の業績について疑問に思ったことをノートに書く。</p> <p>児童の反応</p> <p>・平右衛門は初めから武士だったのではなくて、元々は農民だったのか。だから畑の知識とかももっていたの かな。でも畑に詳しくても、こんなにたくさんの村を一人で救うのは無理だと思った。</p> <p>分析</p> <p>武蔵野新田の分布図から、新田がかなりの広範囲に多数あることに驚いていた。また、肖像画では武士の恰 好をしている平右衛門が、なぜか畑を作ったという事実は児童に驚きを生み出していた。平右衛門が新田開発 を担ったということを年表から調べ、「具体的にどのようなことをしたのか」という疑問を一人一人の児童が もっており、この一つ一つの疑問から学習問題につながっていくことも児童は意識できていた。</p>
	3	<p>〈ねらい〉学習問題を考え、学習問題に対する予想と学習計画を立てる。</p> <p>○前時に出した疑問を基に学習問題を考える。</p> <p>【学習問題】川崎平右衛門はどのようにして武蔵野新田を作ったのだろう。</p> <p>○学習問題に対して、調べるべきことを話し合い、学習計画を立てる。 ○学習問題に対する予想を考える。</p> <p>児童の反応</p> <p>・まずは平右衛門が人をどうやって集めたのかを調べたい。 ・村の姿はどう変わったのかな。 ・水をどこから引いてきたのかは、昔の地図があると調べられるのではないかな。</p> <p>分析</p> <p>児童の疑問を集約し、①どのように人を集めたか、②水をどのように確保したか、③田畑をどのように作っ たか、④どのような苦労や工夫があったか、⑤村はどのように変わったかという学習計画やそれを調べるため に必要な資料を考えることができた。第1時で捉えた視点（人・水・畑）や第2時で捉えた視点（武蔵野新田 の位置や広さ）を生かして学習の計画を立てることで単元の見通しをもつことができていた。各時間の学習課 題を解決するために児童が必要だと考えた資料についても学習計画に組み込み、伝記や工事の記録、当時の地 図などが挙げられた。</p>

課題追究	4	<p>〈ねらい〉 いなくなった村人を呼び戻すために平右衛門が実際に行ったことについて調べる。</p> <p>平右衛門は、どうやって人を集めたのだろう。</p> <p>○地域に人々を呼び戻すために平右衛門は何をしたのか、資料を基に調べる。 ○農民たちがやる気を出して作業するために平右衛門がした工夫はどのようなことであったか資料から調べる。</p>	<p>●立ち帰り料の仕組み(漫画「心一杯」) □平右衛門が村を去った農民の気持ちも考え、村に戻ってくるためには生活するための当座のお金が必要だったことを捉えさせる。</p> <p>●平右衛門が使った木札</p>
	5	<p>〈ねらい〉 平右衛門が農業に必要な水をどのように確保したのか調べる。</p> <p>平右衛門は、どのようにして水を引いてきたのだろう。</p> <p>○新田開発のために、玉川上水の修理をしていたことについて調べる。 ○平右衛門が水を引いてくるだけでなく、多摩川の護岸整備もしていたことについて調べる。</p>	<p>●玉川上水の様子(写真)</p> <p>●護岸工事の様子 □洪水などの被害を減らすために、平右衛門が先を見越して治水を行っていたことを捉える。</p>
	6	<p>〈ねらい〉 田畑を整備する工事の様子について資料から調べる。</p> <p>平右衛門は、どのようにして田畑を直したのだろう。</p> <p>○使われた道具などに着目し、実際の作業の様子を資料から読み取る。</p>	<p>●新田開発工事の様子(絵) ●農地開発に使われた道具</p>
	7	<p>〈ねらい〉 平右衛門が新田開発のためにした工夫について調べる。</p> <p>どんな工事の工夫や苦労があったのだろう。</p> <p>○平右衛門が新田開発に関わる工夫として行った「小金井の桜」について資料から調べる。 ○平右衛門がどのようにして工事に必要な費用を調達したのか調べる。</p>	<p>●小金井の桜(絵、写真) □武蔵野新田の開発は、当時の幕府にとっても重要な事業だったことを補足する。 ●新田開発に関わる幕府の役人の関係</p>
	8	<p>〈ねらい〉 武蔵野新田ができて人々の生活がどう変わったのか調べる。</p> <p>工事のあと村はどのように発展したのだろう。</p> <p>○武蔵野新田ができた後の、農民たちの生活について調べ、変化の様子を捉える。</p>	<p>●武蔵野新田で作られるようになった作物(表) ●ひえ蔵 ●小金井の桜(写真)</p>
課題解決	9	<p>〈ねらい〉 学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>【学習問題】川崎平右衛門はどのようにして武蔵野新田を作ったのだろう。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、武蔵野新田の開発がどのように行われたのかを年表や関係図にまとめる。 ○完成した年表や関係図を見合い、平右衛門がなぜ新田開発を成功させることができたのかを話合う。</p> <p>児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新田はすぐにできたのではなく、平右衛門や村人が力を合わせて何年もかけて作ったのがすごいと思う。 ・調べる前は平右衛門だけでやっていたと思ったけど、いろんな人が関わっていたことがわかった。 ・年表にまとめたことで、調べたことが見やすくなった。 <p>分析</p> <p>第2時で平右衛門のしたことについての概要の年表を示しておいたので、これまでに学習したことを基に、年表をより詳しく書いていくイメージを児童がもっていた。課題追究の場面で調べたことを年表や関係図にまとめていくことで、分かりやすく整理することの良さに気付けた児童も多かった。</p>	<p>●享保・元文年間の年表 ●武蔵野新田に関わる幕府の組織</p>
	10	<p>〈ねらい〉 年表と関係図を基に平右衛門が果たした役割について話し合う。</p> <p>平右衛門はなぜ地域の偉人として現代まで語り継がれているのだろうか。</p> <p>○平右衛門の功績について、当時の人々の思いと関連させて考える。 ○平右衛門の功績が現代まで語り継がれていることを捉え、学習問題に対する自分の考えを書く。</p> <p>児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は平右衛門が私たちのご先祖様たちを助けてくれたことがありがたいと思った。私も平右衛門のように地域のために役に立てる人になりたい。これからも平右衛門の話は残っていくのだと思う。 ・調べるまでは平右衛門なんか知らなかったけど、こんなえらい人だったので驚いた。 <p>分析</p> <p>課題把握の段階から、児童は「川崎平右衛門が行ったこと、それにとまって村がどのように変わったのか」を調べるという見通しをもって学習したことで、毎時間学習問題や学習計画を意識して取り組んでいた。また、一部の児童は、単元の最初と最後で自身の変容に気付くことができた。</p>	<p>●現代まで残る平右衛門の碑</p>

VI 研究の成果

1 児童の追究の動機付けとなる資料の工夫

課題把握の場面における3 Aと4 Aの出現率は、前小单元と比較すると、ほぼすべての項目で高い数値が示されている。

追究の動機付けとなる資料の工夫をしたことにより、児童は社会的事象に対して関心を高め主体的に学ぶことができたと考えられる。

2 追究の方向付けとなる学習計画の工夫

課題追究の場面における3 Aと4 Aの出現率は、前小单元と比較すると、ほぼすべての項目で高い数値が示されている。中には、前小单元より20ポイント以上高い数値も見られる。前小单元よりも学習計画を改善した結果、児童は見通しをもち、主体的に学ぶことができたと考えられる。

C Aシート				
()内は全小单元「染め物のまち新宿区」の数値				
時	①疑問・予想	②調べる	③考える	
	3 Aもしくは4 Aと回答した児童の割合			
課題把握	1	77 (80) %	83 (77) %	73 (60) %
	2	73 (73) %	77 (67) %	73 (63) %
	3	67 (60) %	(40) %	
課題追究	4	57 (63) %	77 (63) %	63 (50) %
	5	57 (57) %	73 (60) %	60 (57) %
	6	73 (70) %	73 (77) %	70 (57) %
	7	67 (63) %	83 (60) %	87 (60) %
課題解決	8	67 (60) %	97 (67) %	67 (60) %
	9	(73) %	(70) %	73 (67) %
	10	73 %	83 %	70 %

	(第4時)課題追究		(第5時)課題追究		(第6時)課題追究	
疑問・予想	4 A	農民に米やお金を与えた平右衛門は親切だと思いました。私が疑問に思ったのは平右衛門がどうやって渡すお金を手に入れたかです。	4 D	平右衛門もすごいけど、玉川兄弟もすごいと思いました。平右衛門が川を直すことで村人から信頼されていったのかなと思います。	4 A	みんな色々な道具を使い、武士も農民が農業ができるように畑を直すのを手伝っていて、それを計画しているのが平右衛門なのかな?と思いました。
調べる	4 A		4 A		4 A	
考える	4 A		3 A		3 A	
	(第7時)課題追究		(第8時)課題追究		(第10時)課題解決	
疑問・予想	4 A	将軍や大岡さんはなぜ平右衛門を信じてそんなことをしたのか?平右衛門は頭がいいけど、それを認めた大岡さんもすごいと思います。	4 C	私は今日改めて新田開発や飢饉のために働いた平右衛門に感謝したいと思いました。平右衛門のこの後についての予想で、武士になり、もっと村をサポートしたと思います。	4 C	平右衛門がここまで武蔵野のすごい人として伝えられてきたのは、みんなが認めてきたからだと思います。人を集めて川を直すことや、武士や農民と協力させたからだだと思います。
調べる	3 A		3 A		4 A	
考える	4 C		4 C		4 C	

A児のC Aシートと学習感想（課題追究の場面と課題解決の場面）

抽出児の反応の分析

A児は単元の初めから終わりまで一貫して3及び4と、主体的に学んでいる回答をしている。課題追究の場面に入ってから3及び4の出現が継続しており、追究意欲が持続していると考えられる。課題追究の場面での学習感想からは、その時間の学習課題を解決した上での新たな疑問（第4時、第7時）や、予想など自分の考え（第5時、第6時、第8時）を書くことができていた。また、課題解決の場面（第10時）では、これまで学習してきたことを基に自分なりに社会的事象の意味（なぜ川崎平右衛門の功績が語り継がれてきたのか）を考え、表現することができていた。分科会の手だて1及び手だて2によって、児童は問いや解決方法が明確になり、主体的な問いの追究・解決が実現したと考えられる。

VII 研究の課題

今後もC Aシート及び学習感想の分析をもとに、追究の動機付けや方向付けにつながる資料や学習計画の工夫について検討を重ねる必要がある。

児童が複数の立場や意見を踏まえて考えるための指導の工夫

I 分科会研究主題設定の理由

本分科会では、まず児童の実態をノートの記述から調査した。例えば本分科会の研究員が担任する学級での「暖かい地域の暮らし（沖縄県）」の学習におけるノートの記述では、「沖縄県にはどのような伝統文化があるだろうか」という学習課題に対して、学級全体の約3割の児童が「沖縄県には色々な文化がある。」などと、とあいまいな表現で記述していることにとどまり、児童が多角的に考えて、調べたことや考えたことを表現できていないと考察した。

そこで「学習指導要領解説 社会編」に基づいて、児童が複数の立場や意見などの視点を持ち、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えることができるような授業になっているか、授業の記録を通して分析したところ、次のような課題が見いだされた。

第一に課題把握の場面において、見いだした学習問題について、児童が複数の立場や意見を踏まえて予想し、学習計画を立てることができず、見通しをもつことができていない。

第二に課題追究の場面において、資料提示が教科書や資料集の該当ページを示す程度にとどまっており、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えることができていない。

以上のことを基に改善策を検討した結果、課題把握の場面において、児童が学習問題について複数の立場や意見を踏まえて予想し、見通しを明確にもつことが必要であると考え、目指す児童像を「複数の立場や意見を踏まえて、我が国の国民生活の向上や国土の保全、及び産業の発展について主体的に問いを追究し解決する児童」と設定し、以下の二点と全分科会共通の手だてとを合わせて研究を行った。

第一に、課題把握の場面において、児童が複数の立場や意見を踏まえて学習問題に対する予想ができるようにしたり、課題追究の場面において、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えることができるようにしたりするような資料を、教師が精選する。

第二に、課題把握の場面において、児童が学習問題について複数の立場や意見を踏まえて予想し、学習計画を立てる際の教師の発問を工夫する。

II 研究の視点

- i 児童が複数の立場や意見を踏まえて学習問題に対する予想ができるようにしたり、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えることができるようにしたりするような資料の精選
- ii 多様な視点に基づく予想について児童が追究・解決方法を検討して学習計画にしていく際の発問の工夫
- iii 児童の授業の振り返りを基に、教師が授業改善をするための手だて

III 研究仮説

教師が資料の精選や、児童の予想を基に学習計画を立てる際の発問の工夫を行い、児童の授業の振り返りを基に授業を改善すれば、児童は我が国の国土の様子と国民生活について主体的に問いを追究し解決するだろう。

IV 研究内容の概要（研究構想図）

背景

【学習指導要領】

社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとは（中略）社会的事の特徴や相互の関連、意味を多角的に考えたりして、調べたことや考えたことを表現しようとする主体的な学習態度を養うようにすることである。

主体的な学びの実現については、児童が（中略）解決への見通しをもって取り組むようにすることが求められる。そのためには、（中略）予想したり学習計画を立てたりして、追究・解決方法を検討すること（省略）。

【教師の願い】

単元を通して、我が国の様々な人の立場や意見を踏まえ、我が国の国民生活の向上や国土の保全、産業の発展について、主体的に問いを追究し解決してほしい。

【児童の実態】

教師の手だてが不足しているため、複数の立場や意見を踏まえて予想や追究をしたり、解決への見通しをもち主体的に学ぼうとする学習計画づくりができたりしていない。

【研究員全体のテーマ】 『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善

【小学校社会科部会の研究主題】 主体的に問いを追究し解決する児童の育成
～小学校社会科における見通しと振り返りの充実～

【第5学年分科会研究テーマ】 児童が複数の立場や意見を踏まえて考えるための指導の工夫

仮説

教師が資料の精選や、児童の予想を基に学習計画を立てる際の発問の工夫を行い、児童の学習振り返りを基に授業を改善すれば、児童は我が国の国土の様子や国民生活について主体的に問いを追究し解決するだろう。

研究内容

1 資料の精選

- 課題把握の場面で、児童が複数の立場や意見を踏まえて予想ができるようにするための資料の精選。
- 課題追究の場面で、児童が社会的事象の特徴や相互の関連、意味を多角的に考え課題を追究できるようにするための資料の精選。

2 学習計画を立てる際の発問の工夫

- 児童が複数の立場や意見を踏まえた予想ができるための発問の工夫。
- 学習問題を解決するために、「何を」、「どのように」調べるのかについて、追究・解決方法を学習計画に整理していく発問の工夫

3 児童の授業の振り返りを基に、教師が授業改善をするための手だて

- CAシートと学習感想の活用
教師は、児童の記入したCAシートや学習感想を基に、手だてが実際の授業において有効であったかを確認し、次の授業の改善を行う。

目指す児童の姿

複数の立場や意見を踏まえて、我が国の国民生活の向上や国土の保全及び産業の発展について主体的に問いを追究し解決する児童

V 研究内容

1 複数の立場や意見を踏まえて、見通しをもったり、考えたりできる資料の精選

(1) 複数の立場や意見を踏まえて予想できるようにするための資料の精選

課題把握の段階において、設定した学習問題について複数の立場や意見を踏まえて児童が予想できるようにするためには、次のような手順が必要だと考えた。

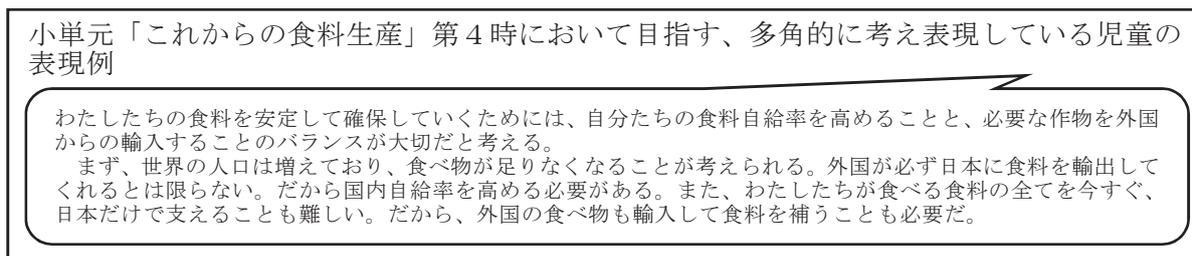
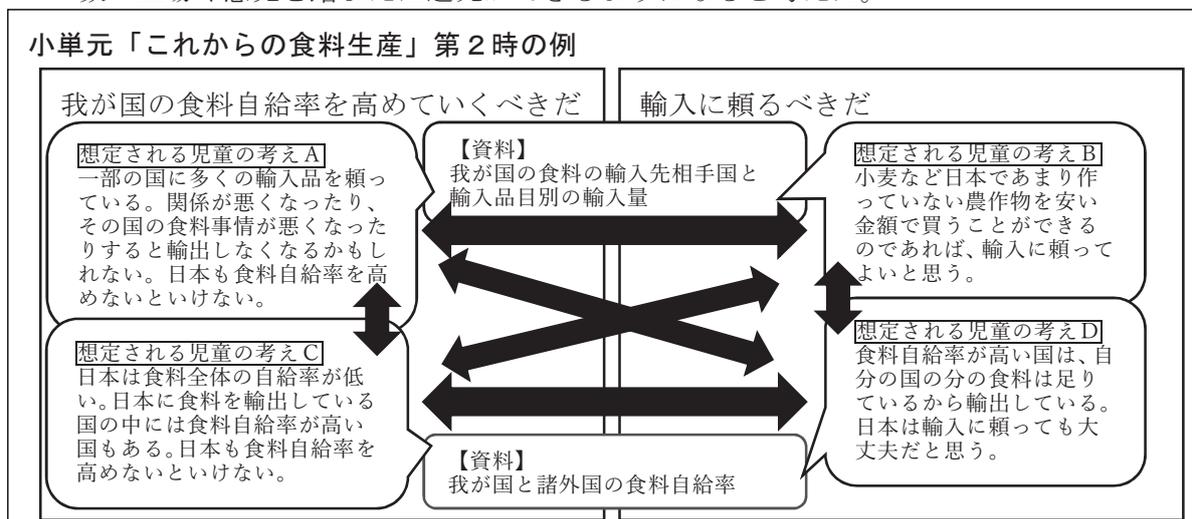
- ① 学習指導要領から単元を通して児童に身に付けさせたい学習内容を明らかにする。
- ② ①で明らかにした学習内容を児童が獲得できるような、学習問題を設定する。
- ③ 学習問題の解決に必要な知識を学習指導要領などに基づき明らかにする。
- ④ ③で明らかにした知識を児童が獲得できるような学習課題を設定する。
- ⑤ ④で設定した学習課題が導かれるような児童の予想を想定する。
- ⑥ 想定した予想が児童に生じるような資料を精選する。

小単元名「これからの食料生産」では次のように単元を構想した。

①単元を通して児童に見に付けさせたい学習内容【学習指導要領解説】 消費者や生産者などの立場などから多角的に考えて、これからの農業などの発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。～ここでは学習したことを基に、生産性や品質を高める工夫を消費者や生産者の立場に立って多角的に考え、これからの農業や水産業における食料生産の発展に向けて自分の考えをまとめることができるように指導することが大切である。		
②単元を通して児童に見に付けさせたい学習内容を児童が獲得できるような学習問題の設定 日本の食料生産をどのように発展させていけばよいだろうか ↓ 『食料を安定的に確保するために、日本はこれからどうしていくべきなのだろうか』		
③学習問題の解決に必要な知識を【学習指導要領解説】などにに基づき明らかにする		
我が国の立場 我が国の食料自給率を高めていくべきだ。 貿易のルールの中で必要な食料の一部を輸入にも頼るべきだ。	世界の立場 ●貿易のルールを守って日本は外国の食料を輸入すべきだ。 ●世界の人口は増えており、異常気象や紛争などによる食料不足のため、他国には食料を輸出しなくなるかもしれない。	
生産者の立場 ●生産・加工・販売を関連付けたいいわゆる「6次産業」の動きなど新しい取組	消費者の立場 ●安全性の確保や環境への負荷の軽減などの意識が高まっていること ●低価格のものだけでなく、高品質のものや希少性のあるものを求める傾向見られること	
稲作と水産業での既習事項 ●農業法人などを設立して取り組んでいること ●温室等の設備により出荷時期を工夫していること ●魚群探知機や養殖などに最新技術を使っていること		
④ ③で明らかにした知識を児童が獲得できるような学習課題を設定する。		
【学習課題】 日本はどここの国からどのくらいの食料を輸入しているのだろうか。	【学習課題】 日本産の食料の割合がなぜ低いのだろうか。なぜ輸入に頼るのだろうか。	
⑤ ④で設定した学習課題が導かれるような児童の予想を想定する。		
【児童の予想】 輸入に頼ってもよい。輸入に頼っているのは日本だけではないのではないか。日本はどここの国からどれくらい食料を輸入しているのか、諸外国と比べるとどのような特色があるのか。	【児童の予想】 国産の食料の割合を高めていくべきだ。	
⑥想定した予想が児童に生じるような資料を精選する。		
【資料】 保護者アンケート 保護者は安全やおいしさから国産品を望んでいるんだな。国産の割合を増やしたいな。	【資料】 一般的なハンバーグ定食を支える国産食料と輸入食料の割合 こんなに国産の食料は少ないのか。もっと増やしたいな。	【資料】 世界の食料事情（人口増加、食料危機など） 日本に輸出してくれなる可能性もあるな。国産の割合を増やしたいな。
こんなに外国産が多いのか、安定して食事をするには外国産が欠かせないな。		

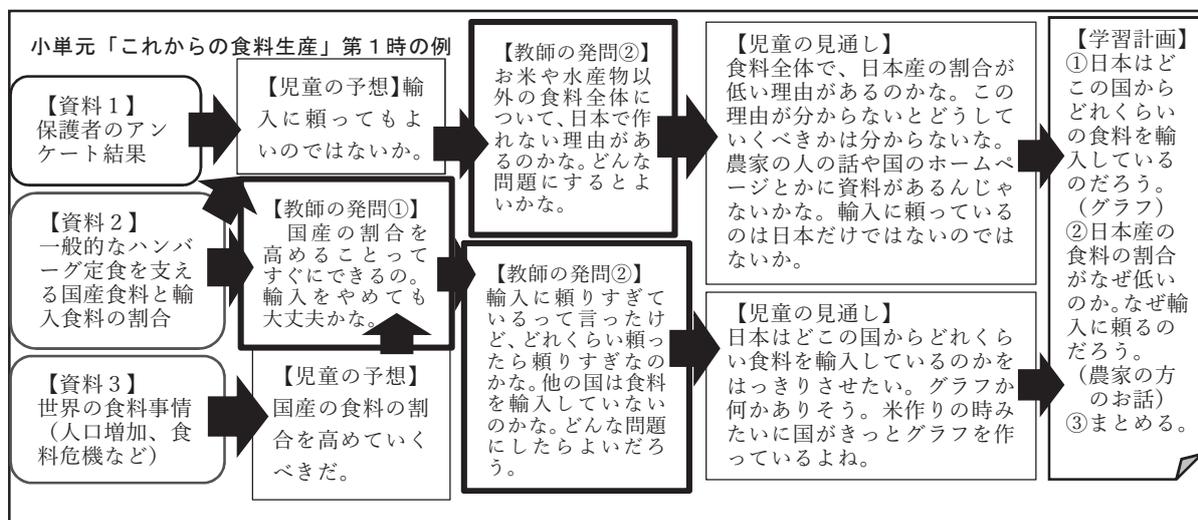
(2) 複数の立場や意見を踏まえて学習課題を追究できるようにするための資料の精選

課題追究の場面において、学習課題について複数の立場や意見を踏まえて児童が追究できるようにするためには、前ページの(1)で示した手順の③の知識が獲得されるように資料を精選することが必要であると考えた。精選した資料を提示すると児童は自らが選択・判断した立場や意見とその根拠を他の児童に伝えたり、逆に伝えられたりして、複数の立場や意見を踏まえた追究ができるようになると考えた。



2 学習計画を立てる際の教師の発問の工夫

学習計画を立てる際、予想を確かめるためには「何を」調べるか、「どのよう」に調べるかを発問したり、追究・解決方法を表現しながら学習課題を設定できるように発問したりすることで、明確な見通しをもたせるようにする。



3 実践事例 小単元「これからの食料生産」(全4時間)

	ねらい	○主な学習活動	分析：学習計画を立てる際の発問	●資料 分析：資料の精選						
課題把握	①輸入に頼る日本の食卓の様子について考え、学習問題を設定し、予想から学習計画をたてる。	<p>○稲作と水産業の学習を振り返り、稲作や水産業で働く人が減ってきていることや、米の消費量の低下、水産物の水揚げ量の低下などの問題点を想起する。</p> <p>○三つの資料から疑問をもとに学習問題を考え、既習事項や資料をもとに予想する。</p> <p>C: 国産品と輸入品の割合を示した食事の資料をみると、日本は輸入に頼りすぎているから、自分の国でもっと食料を作るべきだと思う。</p> <p>T: 輸入に頼りすぎているっていったけど、どれくらい頼ったら頼りすぎなのかな。他の国は食料を輸入していないのかな。どんな問題にしたらよいだろう。</p>	<p>日本の食卓について考え、疑問を出しながら学習問題をつくり、予想をもとに学習計画を立てよう。</p> <p>【学習問題】食料を安定的に確保するために、日本はこれからどうしていくべきなのだろう。</p> <p>C: すると、日本はどこの国からどれくらい食料を輸入しているのかをはっきりさせたいです。みんな同じくらいだったら気にする必要ないのかも。どうもしなくてよいよね。グラフか何かありそう。米作りの時みたいに国がきつとグラフをつくっているよね。</p> <p>C: アンケート結果から保護者も国産品を買いたがっているし、もっと日本で食料作るべきだよ。</p> <p>C: 世界の食糧事情の資料をみると、世界では人口の増加など食料が足りなくなる問題が起きているからなおさら日本で食料をつくらないといけないよね。</p> <p>C: でも水産業の学習では、海外の海じゃないと水産物がとれないって学習もしたよね。外国との関係をよくして、日本でとれないものや作れないものあるんだからこれからも輸入品を大切にしていっていいと思う。</p> <p>T: お米や水産物以外の食料全体について、日本で作れない理由があるのかな。どんな問題にするとよいか。</p> <p>C: じゃあ、もっと日本が食料全体で、日本産の割合が低い理由があるのかな。この理由が分からないとどうしていくべきかは分からないな。農家の人の話や国のホームページとかに資料があるんじゃないかな。</p> <p>C: お米や水産物の学習でもやったけど、日本は食料を作る仕事をする若い人が減って、高齢化が進んでいるでしょう。外国の力を借りないと食料は手に入らないと思うよ。</p> <p>C: 輸入に頼る理由もはっきりさせないと、どうしていくべきかは分からないね。</p> <p>T: ここまでの話を学習計画に整理するとどうなるかな。(板書を見ながら)</p> <p>C: 第一に日本はどこの国から、どれくらいの食料を輸入しているのかを国が作ったグラフなどから調べて外国と比べます。</p> <p>C: 次は、日本産の食料の割合が少ない理由を農家の方のお話や国のホームページなどから調べて原因を考えます。</p> <p>C: 最後に、日本の食料をどうしていくべきか、結論を出します。</p>	<p>●保護者アンケート(食材を選ぶ条件)</p> <p>●輸入品を含めた食事と国産品のみの食事の比較</p> <p>●世界の食料事情(人口増、異常気象、不安定な価格等)</p> <p>児童は「保護者アンケート」や「輸入品を含めた食事と国産品のみの食事比較」の資料から、「食料を安定的に確保するために、日本はこれからどうしていくべきなのだろうか」という学習問題について、複数の立場を踏まえて予想し、学習計画を立てることができた。</p> <p>例えば、「保護者アンケートの結果」から、我が国の消費者は、国産の食料を買って食べたいと考えているのだから、国産の食料の割合を増やしていくべきだと予想したり、「輸入品を含めた食事と国産品のみの食事の比較」から、輸入に頼らないと、食料は安定して確保できないのではないかと予想したり、お米は国産で賄えているのだから、国が応援すれば他の食料も国産で支えられるはずだと予想したりしていた。</p> <p>「世界の食料事情」の資料からは、世界人口の増加や異常気象などの関係で、食料が足りない国も出てくる、自分たちの国の食料を自分たちで支えないといけないと予想していた。</p>						
		<p>児童の予想を確かめるために何をどのように調べるか発問し、問いの形で表現させることにより、学習課題を明確にさせ、見通しをもたせることができた。</p>								
		<p>【学習計画】</p> <table border="1" data-bbox="478 1792 1053 1957"> <tr> <td>第2時</td> <td>日本はどこの国からどれくらいの食料を輸入しているのだろう。</td> </tr> <tr> <td>第3時</td> <td>日本産の食料の割合がなぜ低いのだろう。なぜ輸入に頼るのだろう。</td> </tr> <tr> <td>第4時</td> <td>食料を安定的に確保するために、日本はこれからどうしていくべきなのだろう。</td> </tr> </table>	第2時	日本はどこの国からどれくらいの食料を輸入しているのだろう。	第3時	日本産の食料の割合がなぜ低いのだろう。なぜ輸入に頼るのだろう。	第4時	食料を安定的に確保するために、日本はこれからどうしていくべきなのだろう。		
第2時	日本はどこの国からどれくらいの食料を輸入しているのだろう。									
第3時	日本産の食料の割合がなぜ低いのだろう。なぜ輸入に頼るのだろう。									
第4時	食料を安定的に確保するために、日本はこれからどうしていくべきなのだろう。									

<p>課題追究</p>	<p>②我が国の食料輸入相手国について調べ、食料輸入過多による問題点について考える。</p>	<p>日本はどこの国からどのくらいの食料を輸入しているのだろう。</p> <p>○資料を基に、我が国の食料の輸入先相手国と輸入品目別の輸入量や我が国と諸外国の食料自給率を調べる。 ○調べた事実から、外国に食料の輸入を頼りすぎる問題点を考える。</p> <p>見通しをもった段階で、輸入に頼る必要があると考えていた児童も、「我が国の輸入相手国と輸入品目別の輸入量」から、我が国がアメリカなどの一部の国から食料輸入を頼っている事実を知ること、一部の国との関係やその国の食料事情に伴って、食料輸入を頼ることができなくなるのではないかと考えたり、食料自給率が高い国が外国に食料を輸出している事実を知ること、日本もまずは食料自給率を高める必要があるのではないかと考えたりして、複数の立場や意見を踏まえて多角的に問いを追究する姿が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●我が国の食料の輸入先相手国と輸入品目別の輸入量 ●我が国と諸外国の食料自給率
	<p>③日本の食料自給率の低下の原因について調べ、様々な要因が自給率低下につながっていることを理解する。</p>	<p>日本産の食料の割合がなぜ低いのだろう。なぜ輸入に頼るのだろう。</p> <p>○資料を基に、我が国の食料自給率の低下とその原因を調べる。</p> <p>児童は、我が国の食料自給率の推移の資料から、もともとは食料自給率が高かった事実を知り、どうして低くなったのだろうという疑問をもち、その他の資料から原因を探ろうと主体的に学ぶ姿が見られた。 「農民一人当たりの耕地面積と諸外国との比較」からは、課題把握の場面では、我が国の食料の割合を高めていく必要があると考えていた児童が、既習事項も踏まえ、日本は山地が多く、農業を行って自分たちで十分な食料を生産する環境に適していない。やはり、ある程度は輸入に頼らないと食料を安定して確保できないと考えを変容させていた。 「我が国の食生活の変化」からは、課題把握の場面で、我が国の食料の割合を高めていく必要があると考えていた児童が、「食生活が和食中心に戻ることはないから、やはり輸入に頼る必要がある。」と考えを変容させていた。逆に、課題把握の場面で、輸入に頼る必要もあると考えていた児童が、「今、和食は無形文化遺産にも選ばれたり、健康によいと外国からも注目を浴びたりしている。和食のよさを見直して食べるようにすれば、日本の食料自給率も伸びるのではないか。」と考えを変容させていた。 「我が国の農業就労人口と年齢別割合や食料貿易自由化」からは、課題把握の場面で、我が国の食料の割合を高めていく必要があると考えていた児童が、「日本は人口も減っていて、農業の仕事をする人も減っている。貿易を自由に行うというルールもあるので、農業が盛んな国から安い値段で食料を輸入することも必要だ。」と考えを変容させていた。 このように、教師が精選した資料によって、複数の立場意見を踏まえて多角的に学習課題について考える児童の姿が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●我が国の食料自給率の推移 ●農民一人当たりの耕地面積と諸外国との比較 ●我が国の食生活の変化 ●農業就業人口の推移と年齢別割合 ●食料の貿易の自由化の取組について
<p>課題解決</p>	<p>④我が国の食料自給率について様々な資料を関連付けて考えることを通して、我が国の食料生産が抱える問題を理解するとともに、これからの食料生産について自分の考えをもつ。</p>	<p>食料を安定的に確保するために、日本はこれからどうしていくべきなのだろう。学習問題について自分の考えをまとめよう。</p> <p>○資料から、学習問題について自分の考えをまとめる。</p> <p>日本より農地が狭いにもかかわらず、食料の輸出をするなど様々な工夫を行い、売上げを高めることで農業が発展している国について調べた児童は、「日本も高くても、品質の高い農産物を輸出することで売り上げを高めている農家が、仕事をする人を増やし、食料自給率を高めているのではないか。」と考えていた。 自然宿泊体験学習でかかわった群馬県川場村の農業に携わる方々が、生産だけではなく、加工、販売に至るまでを工夫することで、売上げを高め、若い人も含めて農業の仕事を楽しんでいることを調べた児童は、「川場のように単に農産物を作るだけでなく、よりよく売れるように加工したり、直接販売したりして、売上げを高めていけば、食料自給率を高めていける。」と考えていた。 一方で、「食料自給率が約4割という現実はずぐに変わるわけではない。今、輸入を止めたら食べるものが減ってしまうので、食料自給率を高める努力と輸入に頼るところをバランスよく行っていることが大切だ。」というように、複数の立場や意見を踏まえながら学習問題について考え、表現している児童の姿が見られた。 最後に、「フードアクション」から、食べ残しのように食事をするなどの具体的な行動を通して、食料を安定的に確保する方法を考える児童の姿も見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●諸外国の農林水産業概況（農林水産省） ●群馬県川場村6次産業推進事業 ●フードアクション

VI 研究の成果

1 課題把握の場面における教師の資料の精選や発問の工夫

資料① 予想を基に学習計画を立てる授業の記録の比較

【稲作の授業記録抜粋】 6月	【情報を生かす産業の授業記録抜粋】 9月
<p>【学習問題】誰が、どのようにして高い評価を得るお米を作り、わたしたちのもとに届けているのだろうか。</p> <p>T: 予想を基に学習計画を立てていきましょう。</p> <p>C: お米農家の方が何か工夫してお米を作っていると思う。</p> <p>C: 品種改良をしているんだよ。(中略)</p> <p>T: 農家の人が行っているのですか。</p> <p>C: 分からない。</p>	<p>【学習問題】食料を安定的に確保するために、日本はこれからどうしていくべきなのだろうか。</p> <p>T: 予想を基に学習計画を立てていきましょう。</p> <p>C: 国産品と輸入品の割合を示した食事の資料を見ると、日本は輸入に頼りすぎているから、自分の国でもっと食料を作るべきだと思う。(省略)</p> <p>C: 世界の食料事情の資料を見ると、世界では人口の増加などで食料が足りなくなる問題が起きているからなおさら日本で食料を作らないといけないよね。</p> <p>C: でも水産業の学習では、海外の海じゃないと水産物が獲れないと学習もしたよね。外国との関係をよくして、日本で獲れないものや作れないものあるんだから、これからは輸入品を大切にしていってほしいと思う。(省略)</p>

9月の授業記録を分析すると、年度当初と比べ、何をどのように調べていくかを発問しながら、児童の発言を基に学習計画に反映させることで、児童に学習の見通しをもたせることができるようになってきた。(資料①)

CAシートの質問項目「疑問をもったり、予想ができたりしましたか。」に対して学級全体が肯定的な回答をし、回答理由を資料や友達との話合いと回答した児童の割合は、7月頃は28%であった。しかし、12月になると89%となり、7月に比べ61%上昇した。以上のことから、研究の手だてである教師が予想の段階での資料の精選を行ったり、児童の多様な視点に基づく予想から学習計画を設定する発問の工夫を行ったりすることが、児童が複数の立場や意見を踏まえて予想できるようになることに効果があったと考えられる。

2 課題追究の場面における教師の資料の精選

資料② 児童Aのノートの記述の比較

6月【稲作の学習において、学習問題についての自分の考えをまとめたときの児童Aノートの記述の一部抜粋】	9月【これからの食料生産の学習において、学習問題についての自分の考えをまとめたときの児童Aのノートの記述の一部抜粋】
<p>お米農家の人は、1年中様々な工夫をしておいしいお米を作っています。例えば、機械で苗を植えたり、稲を刈ったりしています。(省略) 当たり前食べているお米だったが、このような努力を支えられているので、大切に食べるようにしたいと思いました。</p>	<p>私たちの食料をこれからも続けて守っていくためには、自分たちの国の農家の人の工夫と、それを応援する私たち、外国からの輸入、そして外国の農家の人の努力が必要だと思いました。</p> <p>まず、世界の人口は増えており、食べ物が足りなくなることが考えられます。外国が必ず日本に食料を輸出してくれるとは限りません。食料自給率を高めるために、例えば、日本の農家の方は安全でおいしい作物を作り、観光客に直接販売するなど、売り上げを伸ばす努力をして、働く人を増やしています。(中略)</p> <p>一方で、私たちが食べる食料の全てを今すぐ、日本だけで支えることも難しいです。例えば、食べ物を農家や水産業で働く人の数が減り、水揚げ量も減っています。だから、外国の食べ物も輸入して食料を補うことも必要だと思います。</p>

「これからの食料生産」の学習を終えた時の児童Aは、6月と比べ、複数の立場や意見のバランスを踏まえながら問いを追究し解決している様子が見られた。(資料②)

CAシートの質問項目「学習課題に対して、調べたことをもとにすすんで考えることができましたか。」に対して肯定的な回答をし、回答理由を資料や友達との話合いと回答した児童の割合は、7月は19%であった。しかし、12月は46%となり、7月に比べ27%上昇した。以上のことから、研究の手だてである、課題追究の場面における教師の資料の精選は、複数の立場や意見を踏まえて児童が問いを追究し、解決できるようになることに一定の効果があると考えられる。

VII 研究の課題

- ・第5学年の内容の(1)、(5)なども含め、第5学年の学習内容全体で、複数の立場や意見を踏まえて考えることができるようになるための指導の工夫を今後も検討していく。
- ・学習計画において設定された学習課題の妥当性について今後も検討していく。

児童が社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えるための資料の精選及び協働的な学習活動の工夫

I 分科会研究主題設定の理由

「小学校学習指導要領解説 社会編」（平成29年6月）の第6学年の目標(3)には、「社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとは、学習問題を追究・解決するために、社会的事象について、意欲的に調べたり、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたりして、調べたことや考えたことを表現しようとする主体的な学習態度を養うようにすることである。」と示されている。

研究員の授業記録や児童の記述を基に児童の実態を分析したところ、約4割の児童に課題追究の段階で問題意識が薄れるなどの追究意欲の低下が見られた。この要因としては、資料を多く提示し過ぎたり、児童に目的意識をもたせないままに話し合い活動を行ったりしていたことが考えられる。また、教師の説明が中心となるような授業も見られた。さらに分析を進めると、追究意欲が低下した児童に共通する実態として、学習問題に対する自分の考えが調べた事実の羅列にとどまり、社会的事象の意味を多角的に考えるまで至っていないことが明らかになった。以上のことを基に検討した結果、社会的事象を多角的に捉えることに課題があるため、その特色や相互の関連、意味も多角的に考えることができず、結果として児童の追究意欲が低下すると考えた。そこで、社会的事象を多角的に捉えさせるための授業改善を行い、児童に毎時間の課題解決の見通しをもたせたり、自分の学習を振り返らせたりすることで、児童の主体的な学びを実現することができると考えた。以上のことから、分科会研究主題及び目指す児童像を設定し、全体共通の手だてに加え、以下の二点の手だてを考えた。

第一に、児童が課題解決の見通しをもって調べることのできる資料を、教師が精選することである。追究の立場に基づき資料を精選することで課題追究の方向が焦点化され、課題解決の見通しがもてると考えた。そこで、追究の立場に基づいた資料の精選を行うこととした。

第二に、追究の立場を明確にした協働的な学習活動を工夫することである。追究の立場を明確にすることで共通の問題意識が生まれ、児童は協力して問題を解決することに必要性を感じ、学習を振り返って有用性（学習活動の価値）を感じると考えた。そこで、児童が追究の立場を意識するような単元構成や立場を明確にした話し合い活動を取り入れることとした。

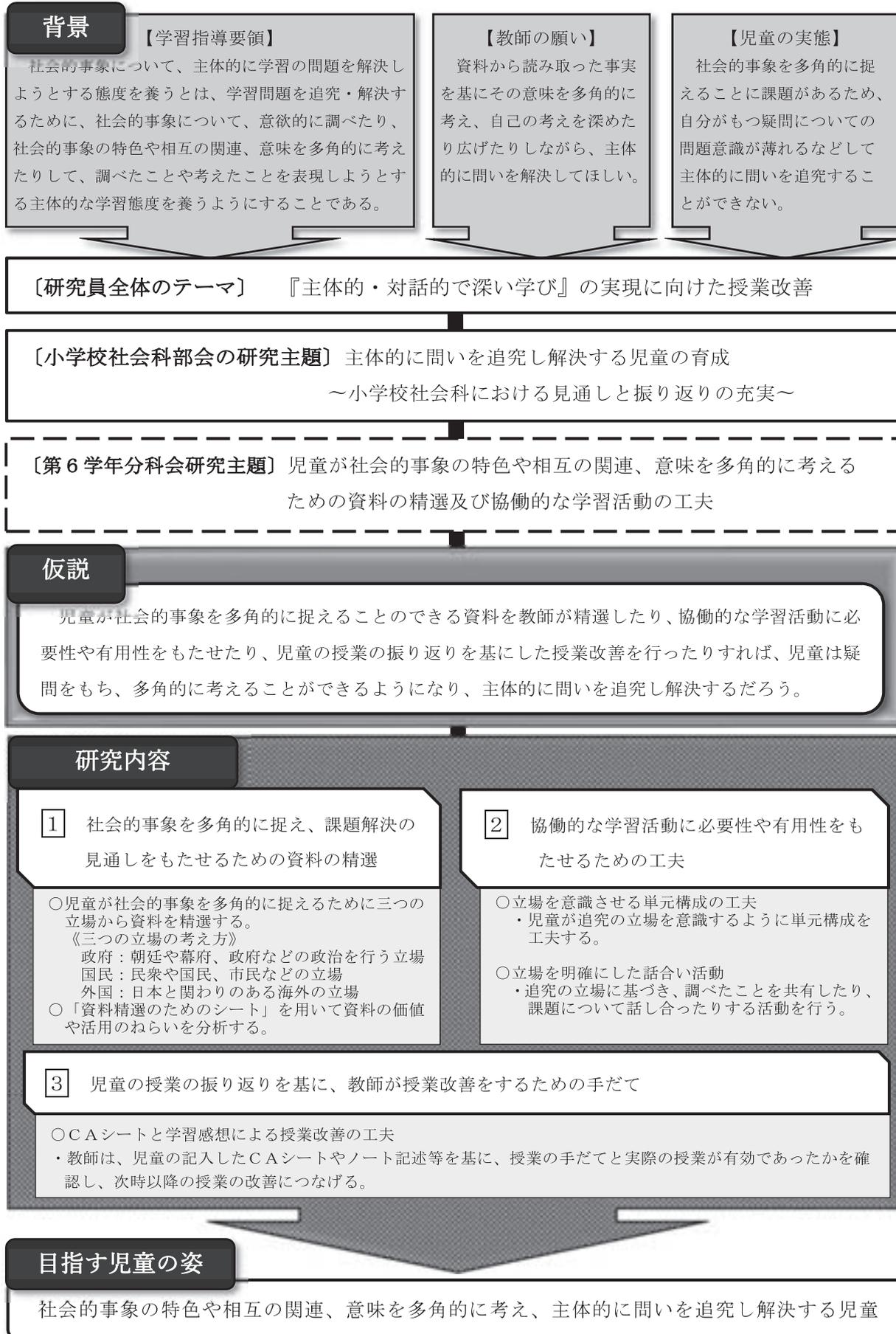
II 研究の視点

- i 社会的事象を多角的に捉え、課題解決の見通しをもたせるための資料の精選
- ii 協働的な学習活動に必要性や有用性をもたせるための工夫
- iii 児童の授業の振り返りを基に、教師が授業改善をするための手だて

III 研究仮説

児童が社会的事象を多角的に捉えることのできる資料を教師が精選したり、協働的な学習活動に必要性や有用性をもたせたり、児童の授業の振り返りを基にした授業改善を行ったりすれば、児童は疑問をもち、多角的に考えることができるようになり、主体的に問いを追究し解決するだろう。

IV 研究内容の概要（研究構想図）



V 研究内容

1 社会的事象を多角的に捉え、課題解決の見通しをもたせるための資料の精選

児童が社会的事象を多角的に捉え、課題解決の見通しをもって調べることのできる適切な資料があれば、児童の主体的な学びにつながると考えた。具体的には、第6学年社会科の学習内容である「歴史、政治、国際関係」を貫く追究の立場を、政府・国民・外国の三つに集約し、資料を分類・整理した。また、毎時間で何を捉えさせるかという視点として、概要・詳細・原因・結果の四つの視点を考え、中心資料と周辺資料に分けた。中心資料は、全員が共通して読み取る資料であり、主に導入で提示し、課題追究の方向を焦点化する。周辺資料は主に追究の立場によって扱い、その扱いに軽重をつける。本分科会では、「資料精選のためのシート」(図1)を作成し、資料精選の視点や具体的な手順を明らかにした。実際の授業場面では、精選の手順①~③(図1参照)に沿って、毎時間の資料を検討した。

図1 資料精選のためのシート 実践事例「近代国家に向けて」

資料精選のためのシート「近代国家に向けて」				資料活用の視点	
社会的事象の… □概要をつかむ資料 ■詳細をつかむ資料 ○原因をつかむ資料 ◎結果をつかむ資料					
	中心資料	政府の立場	国民の立場	外国の立場	追究の立場
【第1時】 学習問題	ノルマントン号事件の風刺絵	◎日本の西洋クラブ仲間入りを描いた風刺絵 ◎小村寿太郎の写真 ◎新渡戸稲造の写真■年表	□ノルマントン号事件の風刺絵	□ノルマントン号事件の風刺絵 ◎日本の西洋クラブ仲間入りを描いた風刺絵	精選の手順
【第2時】 自由民権運動	自由民権運動 演説の絵	□自由民権運動演説の絵	□自由民権運動演説の絵 ■国会開議を望む声		①資料を社会的事象との関係・資料活用の視点・追究の立場に基づき分類・整理する。
【第3時】 大日本帝国憲法	憲法の内容	□憲法公布式典の絵 ■憲法の内容 ◎憲法に基づく国の仕組み	○五訂市憲法草案 ■憲法の内容 ◎初めての選挙の様子	■憲法の内容	
【第4時】 日露・日清の戦争①	朝鮮と日本・清・ロシアの関係を風刺した絵	◎朝鮮と日本・清・ロシアの関係を風刺した絵 ■戦場地図 ■戦費のグラフ	◎戦死者のグラフ	◎朝鮮と日本・清・ロシアの関係を風刺した絵	矢印：社会的事象と資料の関係
【第5時】 日露・日清の戦争②	日本の領土の文化地図	◎日本の領土の文化地図 ■日清戦争の賠償金の使い道のグラフ	■日清戦争の賠償金の使い道のグラフ	◎日本の勝利を伝える外国の新報記事	②中心資料と周辺資料に分類する。
【第6時】 条約改正	年表(条約改正の流れ)	○年表(条約改正の流れ) ■陸奥宗光の業績 ■小村寿太郎の業績	■「君死にたまふことなかれ」の文	◎日本語で教育される朝鮮の子どもたち	
【第7時】 産業の発展	おもな工業生産量のふえ方のグラフ	■おもな工業生産量の増え方のグラフ ○官営八幡製鉄所の写真 ◎貿易額の変化のグラフ	□1880年頃の東京の写真 □1917年頃の東京の写真 ○女工と生活時間 ◎作服の普及の写真		毎時間の資料(中心資料と周辺資料)
【第8時】 科学の発展	世界で活躍した日本人の業績	■世界で活躍した日本人の業績【野口英世、北里柴三郎、志賀廣】 □国際連盟事務次長当時の新渡戸稲造の写真 ○国際連盟発足の経緯	■世界で活躍した日本人の業績【野口英世、北里柴三郎、志賀廣】 ■新渡戸稲造の業績	◎世界で活躍した日本人の業績【野口英世、北里柴三郎、志賀廣】 □国際連盟事務次長当時の新渡戸稲造の写真 ○国際連盟発足の経緯	③本時のねらいを考えながら、資料の活用方法について検討する。(詳細はP22・P23)参照
【第9時】 国際的地位の向上	新渡戸稲造の業績				
【第10時】 まとめ		学習問題の解決			
社会的事象	中心資料				

2 協働的な学習活動に必要な有用性をもたせる工夫

(1) 立場を意識させる単元構成の工夫

追究の立場（政府・国民・外国）は課題把握の場面において、「政府は～。」「国民は～。」「政府と外国の関係は～。」などのように学習問題の予想の視点とした。三つの立場や関係性から学習問題を見だし、予想を基に学習計画を立てることで問題解決の見通しをもたせた。課題追究の場面では、この三つの立場との関連で資料を調べさせた。課題解決の場面では、調べたことを基に三つの立場から社会的事象の特色や相互の関連、意味について考えさせた。このように単元を貫く追究の立場を焦点化して調べることで、ある立場についての情報が詳しく分かるようにすると、問題解決の各場面で立場を意識した協働的な学習活動を展開することが可能となり、児童に協働的な学習活動の必要性や有用性をもたせることができると考えた。

(2) 立場を明確にした話し合い活動の工夫

立場を明確にした話し合い活動を単元や1単位時間に適切に位置付けることで、児童は何のために話し合うのかという目的意識をもって学習に取り組み、この目的意識が課題解決の見通しとなり主体的な学びの実現につながると考えた。実践事例では、第7時において立場に分かれて調べ、その後、調べたことを共有しながら話し合うことで課題解決を目指した（図2参照）。

図2 実践事例「近代国家に向けて（第7時）」協働的な学習活動のイメージ



3 実践事例 小単元「近代国家に向けて」(10時間)

	<p>ねらい</p> <p>○主な学習活動</p> <p>【分析】手だて2「協働的な学習活動の工夫」 (下線：児童の変容)</p>	<p>●資料 (●★：中心資料)</p> <p>【分析】手だて1「資料の精選」 (下線：児童の変容)</p>																		
<p>課題把握</p> <p>① 不平等条約の改正をめぐる状況を調べ、条約改正がどのように進められていくのかについて学習問題を見いだす。</p>	<p>ノルマントン号事件とはどんな事件で、なぜこのような事件が起こったのだろう。</p> <p>○不平等条約に対する政府や国民の考えを風刺絵と当時の条約の内容を関連付けながら調べる。 ○三つの資料と年表から、学習問題を見だし、予想する。</p> <p>【学習問題】日本の立場は、世界の中でどのように変わっていったのだろう。</p> <p>○学習計画を立てる。</p> <table border="1" data-bbox="478 616 1053 1097"> <tr> <td>第2時</td> <td>自由民権運動は、どのような運動だったのだろう。</td> </tr> <tr> <td>第3時</td> <td>大日本帝国憲法の発布や国会開設は、どのように行われ、日本にどのような影響を与えたのだろう。</td> </tr> <tr> <td>第4時</td> <td>日本はなぜ2度にわたって戦争をしたのだろう。</td> </tr> <tr> <td>第5時</td> <td>日清・日露の戦争によって日本と周りの国々との関係はどのように変わったのだろう。</td> </tr> <tr> <td>第6時</td> <td>戦争の後、日本と世界の国々との関係はどのように変わったのだろう。</td> </tr> <tr> <td>第7時</td> <td>日本の産業や人々の暮らしはどのように変わったのだろう。</td> </tr> <tr> <td>第8時</td> <td>科学の発展に力をつくした日本人はどのようなことを行ったのだろう。</td> </tr> <tr> <td>第9時</td> <td>国際社会の中で日本の立場はどのように変わったのだろう。</td> </tr> <tr> <td>第10時</td> <td>日本の立場は、世界の中でどのように変わっていったのだろう。</td> </tr> </table>	第2時	自由民権運動は、どのような運動だったのだろう。	第3時	大日本帝国憲法の発布や国会開設は、どのように行われ、日本にどのような影響を与えたのだろう。	第4時	日本はなぜ2度にわたって戦争をしたのだろう。	第5時	日清・日露の戦争によって日本と周りの国々との関係はどのように変わったのだろう。	第6時	戦争の後、日本と世界の国々との関係はどのように変わったのだろう。	第7時	日本の産業や人々の暮らしはどのように変わったのだろう。	第8時	科学の発展に力をつくした日本人はどのようなことを行ったのだろう。	第9時	国際社会の中で日本の立場はどのように変わったのだろう。	第10時	日本の立場は、世界の中でどのように変わっていったのだろう。	<p>●★ノルマントン号事件風刺絵 ●年表 ●日本の西洋クラブ仲間入りを描いた風刺絵 ●小村寿太郎の写真 ●国際連盟の事務局次長時代の新渡戸稲造の写真</p> <p>中心資料「ノルマントン号事件の風刺絵」を導入で提示することで、当時の国民の不満を共感的に捉えさせることができた。また、「日本の西洋クラブへの仲間入りを描いた風刺絵」と「小村寿太郎の写真」、「新渡戸稲造の写真」を日本と欧米諸国との関係性に注目させて比較することで、日本と外国の立場や関係性の変化に児童の問題意識を焦点化することができ、児童は共通の視点で課題追究に向かうことができた。さらに、政府・国民・外国の立場から学習問題の予想を行い、課題を明らかにしながら学習計画を立てることができた。</p>
第2時	自由民権運動は、どのような運動だったのだろう。																			
第3時	大日本帝国憲法の発布や国会開設は、どのように行われ、日本にどのような影響を与えたのだろう。																			
第4時	日本はなぜ2度にわたって戦争をしたのだろう。																			
第5時	日清・日露の戦争によって日本と周りの国々との関係はどのように変わったのだろう。																			
第6時	戦争の後、日本と世界の国々との関係はどのように変わったのだろう。																			
第7時	日本の産業や人々の暮らしはどのように変わったのだろう。																			
第8時	科学の発展に力をつくした日本人はどのようなことを行ったのだろう。																			
第9時	国際社会の中で日本の立場はどのように変わったのだろう。																			
第10時	日本の立場は、世界の中でどのように変わっていったのだろう。																			
<p>課題追究</p> <p>② 自由民権運動の高まりについて調べ、人々が新しい政治に対してもっていった願いを理解する。</p>	<p>自由民権運動は、どのような運動だったのだろう。《自由民権運動》</p> <p>○資料から自由民権運動の様子を読み取る。 ○板垣退助や大隈重信の業績について調べる。</p>	<p>●★自由民権運動演説の絵 ●国会開設を望む声</p>																		
<p>③ 大日本帝国憲法が制定され、国会が開かれるまでの過程を調べ、明治政府が目指した政治の在り方がどのように実現したのかを理解する。</p> <p>④⑤ 日清・日露戦争の経緯と、その背景にある国際情勢を調べ、日本と世界の国々との関係の変化を理解する。</p>	<p>大日本帝国憲法の発布や国会開設は、どのように行われ、日本にどのような影響を与えたのだろう。《大日本帝国憲法と国会開設》</p> <p>○国会が開かれるまでの様子を読み取る。 ○憲法の内容を調べる。</p> <p>日本はなぜ2度にわたって戦争をしたのだろう。《日清・日露の戦争》</p> <p>○風刺絵から、当時の東アジアの情勢を読み取る。 ○日清・日露の戦争の戦場地図などの資料から、2つの戦争の様子や影響を調べる。</p> <p>日清・日露の戦争によって日本と周りの国々との関係はどのように変わったのだろう。《日清・日露の戦争》</p> <p>○日清・日露戦争の結果から、日本と周りの国々との関係がどのように変わったのかを考える。</p> <p>資料を基に政府の立場・外国の立場・国民の立場で個人の調べ学習を行った後、立場を明確にして話し合った。政府の立場では、戦争に勝利したことで国の安全を確保することができたこと、国民の立場では、日清戦争の賠償金を得ることができたことなど、外国の立場では、近代化を進めた日本を認める外国もあったことを捉えることができた。児童は、日清・日露の戦争地図からそれぞれの立場で戦争の影響や周りの国との関係について自分の考えを表すなど、社会的事象の意味を多角的に考えることができた。</p>	<p>●憲法公布式典の絵 ●★憲法の内容 ●五市市憲法草案 ●初めての選挙の様子</p> <p>●★朝鮮と日本・清・ロシアの関係風刺した絵 ●日清・日露の戦争の戦場地図</p> <p>●★日本の領土の変化地図 ●日清戦争の賠償金の使い道のグラフ</p> <p>中心資料「朝鮮と日本・清・ロシアの関係の風刺絵」を導入して提示することで、児童は三つの立場を意識しながら社会的事象の概要をつかむことができた。また、複数の資料の中から追究の立場に応じた資料を選択することで追究の方向が焦点化され、児童は見通しをもって、課題追究を行うことができた。</p>																		

<p>⑥ 条約改正を願う人々の思いや政府の取組を理解する。</p>	<p>戦争の後、日本と世界の国々との関係はどのように変わったのだろう。《日露戦争後の日本と世界》</p> <p>○日露戦争が国内に与えた影響や国民がそれをどう受け止めたのか調べる。 ○韓国併合の経緯を調べ、その意味について多角的に考えるとともに、不平等条約が改正された背景や理由を考える。 ○不平等条約が改正された理由を考える。</p> <p>資料を基にそれぞれの立場で調べ学習を行った後、立場を明確にして話し合った。政府の立場では、日清・日露戦争を通して大国に勝利したことや韓国を併合したこと、不平等条約を改正したことにより世界における日本の地位が向上したこと、国民の立場では、戦争に賛成した人と反対した人がいることや賠償金の問題に不満をもったこと、外国の立場では、朝鮮の反日感情などを捉えることができた。児童は、戦争に賛成した者と反対した者がいたことなどに対して、活発に議論することで、社会的事象の意味を多角的に捉えることができた。</p>	<p>●★年表「条約改正までの流れ」 ●日本語で授業を受ける朝鮮の子供たちの写真 ●「君死にたまふことなかれ」の文 ●陸奥宗光の業績 ●小村寿太郎の業績</p> <p>中心資料の年表から社会的事象の概要をつかみ、周辺資料から、戦争に批判的な立場や戦争の被害にあった朝鮮の人々の立場に立て、戦争が国内や外国の人々に与えた影響を多角的に考えることができた。</p>
<p>⑦ 産業が発達した様子を調べ、それに伴って人々の暮らしが向上したことや、その一方で労働問題などが発生したことを理解する。</p>	<p>日本の産業や人々の暮らしはどのように変わったのだろう。《産業の発展と暮らしの向上》</p> <p>○主な工業製品の生産量のグラフを見て、日清・日露戦争前後の工業製品の生産量の変化を予想する。 ○産業が盛んになったことで、人々の暮らしはどのように変わったか調べる。 ○グループで調べたことを伝え合い、学習課題に対する考えをまとめ、発表する。</p> <p>資料を基にそれぞれの立場を踏まえながらペアで調べ学習を行った後、グループで学習課題について話し合った。政府の立場では、軽工業や重工業が発達したことにより生産量が増えて輸入国から輸出国になったこと、国民の立場では、暮らしが豊かになった反面、長時間労働や公害問題などが起こったことなどを捉えることができた。児童は、産業発展のプラス面を評価しつつもマイナス面についても議論することで、児童は社会的事象の意味を多角的に捉えることができた。</p>	<p>●★主な工業製品の生産量の増え方のグラフ ●1880年頃と1917年頃の東京の写真 ●官営八幡製鉄所の写真 ●日本の貿易額の変化のグラフ ●洋服の普及の写真 ●女工と生活時間</p> <p>中心資料「主な工業製品の生産量の増え方のグラフ」を導入として提示することで、児童は、政府と国民の立場で課題を解決する見通しをもつことができた。また、プラス面とマイナス面を捉える資料によって、児童は産業発展に対して異なる視点をもつて、課題追究を行うことができた。</p>
<p>⑧ 産業の発展や暮らしの向上を背景に、日本の科学が発展したことを理解する。</p>	<p>科学の発展に力をつくした日本人はどのようなことを行ったのだろう。《科学の発展》</p> <p>○科学の発展に寄与した日本人の業績について調べる。 ○日本に対する国際的評価がどのように変わったか考える。</p>	<p>●★世界で活躍した日本人の業績 【野口英世、北里柴三郎、志賀潔】</p>
<p>⑨ 国際的に活躍した人物や当時の世界の中での日本の状況について調べ、日本の国際的地位が向上したことを理解する。</p>	<p>国際社会の中で日本の立場はどのように変わったのだろう。《国際的地位の向上》</p> <p>○国際連盟事務次長当時の新渡戸稲造の写真から国際社会で活躍する日本人の様子を捉える。 ○国際社会の中での日本の立場の変化について調べる。 ○国際社会での日本の立場を考える。</p>	<p>●★新渡戸稲造の業績 ●国際連盟事務次長当時の新渡戸稲造の写真 ●国際連盟発足の経緯</p>
<p>課題解決 ⑩ 近代国家を目指す流れをまとめた年表を基に学習問題について自分の考えをまとめ、日本の近代化に向けた取組について考える。</p>	<p>日本の立場は、世界の中でどのように変わっていったのだろう。</p> <p>○近代国家を目指した日本の取組を年表にまとめ日本の立場に注目させる。 ○年表を基に、学習問題に対する自分の考えをまとめる。 ○グループで、政府の立場・国民の立場・外国の立場を考えながら、日本の近代化に向けた取組について話し合い、まとめたことを発表する。</p> <p>児童は、年表を基に政府、国民、外国の三つの立場からグループで日本の近代化に向けた取組について話し合った。その後、話し合ったことを生かし、三つの立場を意識して、それぞれの立場を関連させながら文章で記述した。ある児童は、「政府や国民の努力によって日本の国際的な地位が上がって、新渡戸稲造さんのような世界を代表できるくらい力をもつ日本人が現れたのだろう。」と記述した。このような記述から、社会的事象の相互の関連や意味を多角的に考えることができたといえる。</p>	

VI 研究の成果

1 社会的事象を多角的に捉え、課題解決の見通しをもたせるための資料の精選

追究の立場に基づき資料を精選したことで、課題追究の方向が焦点化され、児童は、毎時間の課題解決の見通しをもち、社会的事象を多角的に捉えることができるようになった。学習感想には、「戦争後、日本と世界の国々との関係は対等になった。国民も生活が苦しくなったものの戦争に賛成の声が多かった。」というように、8割以上の児童が追究の立場を意識した記述を書くようになった。また、CAシートの回答項目に「3」、「4」と回答した児童の半数以上が理由をA【資料】と回答しており、資料の精選が児童の主体的な学びに効果があったといえる。

表1 CAシート（一部抜粋）分析：理由A【資料】

近代国家に向けて	①疑問・予想	②調べる	③考える
課題把握	59%		
課題追究		67%	54%
課題解決			48%

※CAシート回答項目3、4かつ理由項目A【資料】を選択した児童の割合を問題解決的な学習過程（課題把握・課題追究・課題解決）ごとに集計した値。

[資料から問題意識を高め、追究の見通しをもつことができたA児の学習感想の変容]

「新しい時代の幕開け」	「近代国家に向けて」（下線：児童の変容）
人々の暮らしが新しくなって、このままよいことがたくさんあるとよい。	今回の資料は風刺画が多く、細かい下駄なども描かれていておもしろかった。 <u>時間の流れが感じられるようになっていて分かりやすかった。</u> 私は戦争の勝敗も不平等条約改正に影響していると思った。

資料の活用や効果に関する記述、追究の立場に基づき問いの予想を多角的に推察するなどの記述が見られるようになり、資料から問題意識を高め、主体的に問いを追究するようになった。

2 協働的な学習活動に必要性や有用性をもたせる工夫

協働的な学習活動に必要性や有用性をもたせることで、協力して課題解決に向かうことに価値を見いだす児童が増えた。（課題追究における理由Bの出現率が前小単元より21ポイント上昇。（55%））学習感想にも、自分の考えの深まりを実感した記述が見られ、次時以降の意欲につながっていた。また、自分の力で課題を調べられるようになったと実感した児童も増え、調べ学習の充実にもつながった。

表2 CAシート（一部抜粋）分析 理由B【話し合い】

近代国家に向けて	①疑問・予想	②調べる	③考える
課題把握	26%		
課題追究		55%	30%
課題解決			12%

※CAシート回答項目3、4かつ理由項目B【話し合い】を選択した児童の割合を問題解決的な学習過程（課題把握・課題追究・課題解決）ごとに集計した値。

[振り返りによって協働的な学習活動の有用性を実感したB児の学習感想の変容]

「新しい時代の幕開け」	「近代国家に向けて」（下線：児童の変容）
まとめるのが難しかった。	なぜ自由民権運動が行われたのか、国民の立場については自分で調べてある程度のことは分かったが、士族や政府の立場については調べていなかったため、自分が調べた国民の立場もふくめて、みんなが調べた立場について話し合うことによって、それぞれの立場を理解することができた。

国民の立場で考えることが多く、多角的に考えることに課題があったが、異なる立場で追究した児童と話し合うことで多角的に社会的事象の意味について考えることができ、主体的に問いを解決することができた。

VII 研究の課題

- ・立場を踏まえた話し合いの目的を、より明確にするための方策について検討を重ねる。
- ・協働的な学習活動の単元への位置付けについて、検証を重ねる。

平成 30 年度 教育研究員名簿

小学校・社会

第 3 学年及び第 4 学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
江戸川区立葛西小学校	主任教諭	○ 豊嶋 勝也
千代田区立お茶の水小学校	主任教諭	川地 康之
杉並区立天沼小学校	主任教諭	新宅 直人
豊島区立清和小学校	主任教諭	中島 良
北区立王子第三小学校	主任教諭	◎ 岩森 一弥
江戸川区立上小岩第二小学校	主任教諭	長田 進
立川市立第八小学校	主任教諭	岩井 美保

第 5 学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
目黒区立東山小学校	主任教諭	○ 平田孝一郎
大田区立池雪小学校	主任教諭	金澤 公輔
世田谷区立経堂小学校	主任教諭	吉川 亮二

第 6 学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
昭島市立つつじが丘小学校	主幹教諭	○ 竹内 秀礼
北区立王子小学校	主任教諭	樋口のぞみ
調布市立緑ヶ丘小学校	主任教諭	森山 泰雄
武蔵村山市立第四小学校	主任教諭	高橋 喜之
あきる野市立草花小学校	主任教諭	小松 里実

◎全体世話人 ○分科会世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 山崎 禎久

平成 30 年度

教育研究員研究報告書
小学校・社会

東京都教育委員会印刷物登録
平成 30 年度 第 135 号

平成 31 年 3 月 発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社